

・世界展開力強化事業 長期留学 第4回報告書

ブラジル連邦共和国 サンパウロ大学(ESALQ-USP) 国際食料情報学部
食料環境経済学科 内海真登

・はじめに

本書では留学開始から7ヶ月が経ち、ブラジルでの言語や生活の適応によって、これまでよりさらに行動範囲の広がった最後の3ヶ月について報告する。ESALQでの活動は12月初旬に全て終了したため、それ以降の大学外での活動が非常に有意義なものであった。これまで同様に農大関係の方々、ESALQの先生と友人をはじめブラジルでサポートしてもらった人達への感謝を忘れず残りの留学生活を送っていきたい。

・ミナスジェライス州での友人の農場訪問

12月末から新年にかけてミナスジェライス州にある人参やじゃがいも等の大規模農場に1週間程滞在した。ESALQのヘプブリカの友人の実家に招待してもらい同州のアラシャ市とその周辺地域の観光及び農場の案内をしてもらった。友人の父親が農場を営んでおり人参が300ha、じゃがいもが30ha、タマネギ80haに加えてアボガドを栽培している大農である。ブラジルに来て以来、果樹やサトウキビの農業を訪れる機会はあったが、野菜の大農ははじめてだったのでその規模の大きさに衝撃を受けた。特に人参の農場は規模が大きく、種まきから除草収穫前までの作業を全て機械で行なう。収穫後はトラクターと手作業で行なう。収穫後、人参はトラックで約10時間程離れた洗浄場に運び洗浄した後、主にサンパウロを中心にブラジル各地に流通する。

それぞれの生産工程で異なる農業機械を使用するため種撒き機、農薬散布機、トラクターなど50以上の農業機械を使用している。種撒き機は前半部分で穴を掘り通過後、後半部分でその穴に種をまいていく。農薬散布機は左右羽が伸びたような形をしており、その羽の部分からスプレーの様に全体に散布する。

またセンターピポット式の灌水で、半径70メートル程の円を描き水を撒いていく。ブラジルでは大豆やトウモロコシ等の穀物もセンターピポットでの灌水で行なっており、規模の大きいブラジル農業の象徴的なものであると感じた。

・マトグロッソド・スウ州の日本移住地訪問

年末からお正月は友人と両親の実家である、マトグロッソドスウ州のドラードスという所で過ごした。1000km以上ある道のりを車がパンクしながらも12時間以上かけて移動した。道中、放牧や大豆、コーヒー畑などを見る事ができ、車移動で時差を経験するなどブラジルの規模の大きさを肌で感じた。車がパンクしても慌てることなく、スペアタイヤを取り付けるだけでなく、長距離移動中の車の整備を全て自分達で行なうところに自分にはない、ブラジルの人の問題に対する対処能力の高さを学んだ。日本では様々な場面でインフラが整備されているのが、ブラジルでは問題や時間の遅れが起きることが多々あるので、生活している人の対応力は非常に高く、日本の恵まれた環境しか知らない私も、こうした臨機応変な対応力は学ぶべき所だと思った。

滞在2日目は車でパラグアイの国境付近まで行き、その後テレレというこの地域の特産のお茶作りを体験した。テレレはマテ茶の一種で、ブラジルでは作り方が地域によって異なり、それに応じて名前も変わる。テレレの特徴は最初から冷水で水炊きし、特殊なストロー（茶葉が口に入らない様に先がとて狭いもの）を使って飲む点である。南部ではシマホンというマテ茶があり、特赦なストローを使う点は同じだがこれは温かい飲み物である。このようにマテ茶ひとつを取っても、地域によって飲み方や味が異なるものがブラジルには多く存在し、地域による色が日本よりも強い興味深い点である。

年末は友人の親戚10人程と日本食中心でお祝いし、お正月は日本文化会館で大勢の日系人やその家族と共にお酒や食事を楽しんだ。ドラードスは今もまだ日系の文化が多く残る地域で日本語学校やJICAのボランティアによる野球の指導なども盛んである。日本語を話す人の割合も高くブラジルにきて、9ヶ月目で一番日本を感じたひと時でした。今まで各地域で日本移住地の方のお話を聞く度に、日本人のまじめさや逆境に負けない強さを知り、私も日本人で良かったという気持ちと同時に、これからの自分には大きく広がる可能性がある事に改めて気がつくことができ、やりたい事に素直にチャレンジしていきたい。

・ニチレイブラジルでのインターンシップ

私は1月17日から2月8日まで、ペルナンブコ州ペトロリーナ市にあるニチレイブラジル（以下現地会社名のNIAGROと表記）でインターンシップを行なった。NIAGROはアセロラを専門とする素材メーカーである。ペトロリーナでは、FSSC22000規格の食品工場を運営し、サンフランシスコ中流域を中心にアセロラ農家を組織しておりNIAGROのアセロラ素材は、世界需要の半分以上を賄っている。200以上の農家の管理指導を徹底し、安心安全な成分規格の素材を安定して供給し、顧客価値につながっているとい

うところに事業の特徴がある。工場で濃縮果汁に加工し、タンクで欧米向けに輸出している。アセロラは健康志向の天然ビタミンC果汁としての需要に加え、今は天然酸化防止剤として自然志向食品の加工に欠かせない素材になっている。

インターンシップ中は日本の社員さんのお宅に滞在し、月曜日から金曜日まで各部署で研修し、土日にペトロリーナ観光等を行なった。NIAGROには全部で6つの部署があり、①品質保障、②環境管理、③生産及びマネージメント、④原料調達、⑤ファイナンス・会計、⑥輸出業務、これに加えて研究農場での活動に分かれている。約3日ずつ各課の課長さんを中心に案内してもらい、アセロラの生産から工場での加工、輸出までの工程全てを学ぶことができた。この中でもより印象的だった①、②、④の取り組みについて報告する。

まず①は商品の品質を保障するために、ビタミンCや糖度、色の分析を丁寧に行なうことで顧客に商品の示すことが可能になる。アセロラを果実として買い付けた時から生産者情報とその果実の分析を記録し、工場での加工中と加工後も分析も同様である。この部署は1つの研究所のようになっており、常に様々な試薬や機械をつかい化学的に成分を数値化している点が重要であると学んだ。

次に②の環境管理は、アセロラ加工の工程で環境に配慮し持続的な資源利用が出来るかについて検査、運営している部署である。主に工場で使う大量の水の安全性の確認や使用後の水の処理等を行なっている。ペトロリーナは非常に雨が少なく、NIAGROはサンフランシスコ川という大きな川からポンプで水を引き、果実の洗浄から濃縮果汁にする全ての工程に利用している。その使用後の水は微生物を利用した水循環によって浄化し、100%川に戻している。ペトロリーナは日常生活、工場、農業全ての分野において川の水を利用しているため人々の生活を支える替えの効かない地域の最も大切な資源である。近年その川の水量が減少傾向にあり、そうした点からも水を循環させる取り組みの重要性を実感しました。

④の原料調達は200以上ある契約農家に一軒一軒訪ねて、生産状況や相談をする機会を毎週1回設けている。生産状況の把握や問題が起きた時の対処が早い点などで非常に重要な役割を果たしている。なによりも生産者と常に顔を合わせ会話をすることで信頼関係を強くできる点に素晴らしいと思った。企業に契約農家があっても書面や年に1度だけの訪問で済ます事もある中でこの頻度で生産者と関わっているのは、良いアセロラを得るためのNIAGROのこだわりであり、シェア世界一に繋がっているのだと感じた。この農家訪問に同行させてもらうことで、ペトロリーナでの灌水での果物の農業を実際に学ぶ事ができた。灌水は電気代を含めた管理費がかかる一方で、乾燥地帯では安定した農作物による収入を得る手段として欠かせないものである。また生産者へのインセンティ

ブとして年に2回農家会議を開き、全員への食事や出荷量の多かった農家を表彰し、特典を渡す取り組みを行なっている。私はこうした企業と生産者との関係性が非常に大事だなと感じた。

このように付加価値をつける取り組みは全ての部署が協力することで成り立っている。ひとつの要素だけで付加価値にするのは難しく、いくつもの要素が合わさって商品として、市場で強いものになる事を学んだ。そして言葉やイメージだけでなく具体的な数値や認証を通して示すことで信頼につながり、顧客を納得させることができるのである。今回のインターンを通して、アセロラという1つの商品を販売するまでの漠然としたイメージから、具体的な企業活動を学ぶことができた点が良かった。そして留学生として大学にいただけでは分からない、ブラジルの社会人と関わったことが何よりの貴重な経験である。想像よりも社員さんは勤勉で責任をもって仕事をしており、自分と同年の人が既に大きな戦力として活躍している姿に刺激をもらった。年齢や在籍年数ではなく能力1つで判断されるブラジル社会はより専門性を求められ、仕事を見つけるのは難しく同じ会社に最後までいるということはほぼない。ブラジルは人も温かく明るい、社会は日本よりもシビアな世界である反面、能力があれば誰でも活躍する場あるとことだと感じた。

・最後に

留学生活最後の三ヶ月間は農大会や大学の友人、NIAGROの人達をはじめブラジルでなければ繋がらなかった多くの縁に恵まれて、自分が想像していた以上の貴重な経験を行うことが出来た。機械を使った大農やブラジル日系企業でのインターンシップの経験は必ず今後の私の将来の助けになってくれると確信している。11ヶ月間ブラジルで出会った全ての人と縁に感謝し、また次は何かを日本からブラジルに貢献できるような人材となって恩返しができるよう帰国後も一生懸命取り組んでいきたい。

NIAGRO でのインターンシップ

